



『 LDL と HDL の比 』



メタボリック症候群は、心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性の疾患になりやすいといわれています。

その中の一つである脂質異常症は、中性脂肪、LDL コレステロール (LDL)、そして HDL コレステロール(HDL)の値で診断します。

LDL は、肝臓でできたコレステロールを体の隅々へと運ぶ役割があり、増えすぎると血管壁に付着し、動脈硬化の原因となります。

一方、HDL は LDL を取り除き、肝臓へと運ぶ役割があり、動脈硬化の予防につながると考えられています。

LDL 120mg/dl 以上、HDL 40mg/dl 未満が異常ですが、最近 LDL が正常でも、HDL が低いと動脈硬化の危険度が高くなるといわれています。

まだ、動脈硬化の危険度診断としてはデータが足りませんが、今のところ、LDL/HDL が 2.0 以下であれば問題なく、2.5 以上であれば動脈硬化の危険性ありとされています。

また、LDL/HDL を 1.5 以下にすると、動脈硬化の改善を認めたとする報告もあり、動脈硬化の危険性を知るために、LDL と HDL の比が注目されています。



厚生連健康管理センター

循環器内科 吉福 史郎